

南房総市行政改革推進委員会 第2回会議録

- ・開催日時 平成18年10月11日(水) 午後2時~午後4時
- ・開催場所 南房総市役所別館 1階大会議室
- ・出席委員 庄司眞敏委員 大和田愼一委員 古内徳子委員 忍足浩男委員
平柳常子委員 鈴木俊一良委員 早川光樹委員 平井恵美子委員
稲葉輝實委員 羽山誠委員 木曾貴夫委員 川名晴作委員
忍足よね子委員 嶋田由美子委員 大橋玲委員
- ・欠席委員 渡邊政久委員
- ・市側出席者 市長 助役 総務部長 企画部長 総務課長 企画政策課長 財政課長
行政改革推進室長 行政改革推進室係長 担当1名
- ・次第
 - 1.開 会
 - 2.会長あいさつ
 - 3.本部長あいさつ
 - 4.議 事
 - (1) 総合計画審議会委員の推薦について
 - (2) 行政改革大綱について
 - (3) 集中改革プランについて
 - (4) その他
 - 5.閉 会
- ・公開又は、非公開の別
公開
- ・傍聴者 なし

要 旨

- 1.開 会
- 2.会長あいさつ
- 3.本部長あいさつ

4. 議 事

(1) 総合計画審議会委員の推薦について

副会長である大和田愼一委員を推薦することを決定。

(2) 行政改革大綱について

委員から寄せられた質問について事務局より参考資料1について説明。

議題とした南房総市行政改革推進計画（案）の行政改革推進における基本的事項、行政改革の大綱については、原案のとおり決定。

【主な意見】

委員 大綱については、総務省の指針に基づいて作成されているが、非常にインパクトが弱い気がする。例えば、行政組織を経営体に改革するというような文言を入れると市民に対して非常にインパクトがあるのではないか。また、表現が難しくて我々にはわかりづらい。このような点を見直してもらいたい。

委員 これでは、一般の市民には、言葉が難しくてわからない。やさしくて、はっきりとなにが一番の重みなのかというものがあつた方がいいのではないか。

市長 今後、大綱をベースにした集中改革プランを作成していく。その中において個別、具体的なプランを盛り込み、より市民の方々に近い感覚のものにしたいと考えている。

行政を経営体に改革するという意見があつたが、行政改革は、職員の意識改革そのものだと考えている。システム的にコストを削減するのも大事だが、一人ひとりが意識そのものを変えていかなければならない。今後は民間企業並みの、意識改革プログラムも導入していきたいと考えている。そうした中で、行政運営は経営だという意識、コストに対する感覚を磨いてもらいたいと思っている。

また、今回の行政改革の目的は、いかに無駄のないそして効率的、効果的な行財政運営を行うかということである。

委員 今後市民に広報等で公表していくわけだが、その時はイラスト等を使い、誰もが分かりやすい形にしてもらいたい。

室長 分かりやすい形で公表していきたいと考えている。

委員 南房総市を今後どのように導くのかという骨格がなければ、細かい議論はできないのではないか。

市長 南房総市がスタートして様々な計画策定が進められている。その中のひとつに行政改革推進計画があり、総合計画がある。今後の南房総市についての施策は、総合計画で進めていく。本来総合計画を示して、行政改革について検討してもらえればよいが、今回は時間がない。基本理念としては、南房総市らしさを磨いていくことが、将来の発展につながっていくと考えている。また、来年度の予算編成においては、基本理念に沿った具体的施策を盛り込んでいきたいと考えている。

(3) 集中改革プランについて

事務局より資料2 集中改革プランについて説明。

次回の会議資料として現在、取りまとめの作業を行っている集中改革プランについては、委員の方々に今月の27日頃には発送をし、次回会議において細部にわたっての審議をお願いしたいことを説明。

【主な意見】

委員 このプランは、どこもがやっている当たり前のことであって、行政改革ではない。行政改革というのは、自主財源をどのように増やすかとか、義務的経費をどのように削減していくのか、どのように職員数を適正規模にするのかそういったことではないのか。岩手県の滝沢村では、非常に厳しい行政改革を行っている。このようなところを参考にしたらどうか。改革というのは、大変だが目標をもって望んでもらいたい。

市長 自主財源の確保等、現在検討段階に入っているものもいくつかある。今回示した集中改革プランは、当たり前のことを確実に実行してもらおうという意識を職員に持たせるという意味もある。また、これから作成していく集中改革プランのイメージを委員の皆さんに持ってもらおうということで提示した。今後も様々な意見出していきたい、またそれを反映していきたいと思っている。

委員 次回示される集中改革プランについては、目標値が入ってくるのか。

事務局 将来的には、数値化できるものは、随時入れていこうと考えている。ただし、次回示すもの全てが数値化できるというわけではないので理解をいただきたい。

(4) その他

次回の推進委員会開催日及び、報酬等について事務局より説明。

【主な意見】

委員 広報等の配布について現在、業者委託により仕分けをし、メール便で各組長へ送付しているようだが、職員数も多い中今までどおり職員の手で各区長へ配布することはできないのか。職員が配布することにより、経費の節減や区長からの要望等も迅速に伝わるのではないかと。適正な職員数になった時点で委託等を考えればいいのではないかと。

委員 組長配布になったことにより区長に情報が入るのが遅れてしまうという問題もある。

委員 市民と行政のサービスに対するずれがあるのではないかと。

委員 広報等の配布方法について委員の方々に共通理解をしていただきたい。もともとの出発点は、合併協議の中で広報紙を新市において月2回発行するというのが要因である。ほとんどの町村は、月1回の発行だったため、区長の負担を減らすため、富浦町、丸山町で実施していた組長への配布方式をとった。このような経緯があったことを理解していただきたい。

総務部長 合併協議の中で決定されたことだが、旧町村では区長に配布し区長から各組長にお願いしているところ、組長に直接配布しているところがあった。協議の中では、サービスの低下がないように今回の方法を取った。今後は区長と協議を行い、従来行っていた方法等も含め検討していきたい。

市長 これから行政経費を削減するにあたっては、市民と行政の協働というなかでどこまで行政サービスを行えばよいのか考えていかなければならない。そういったことについても委員の方々に意見をもらいたいと思っている。

配布物に関しては、従来の区長への配布がよいのか、コストの比較の中でメール便を利用した組長配布がよいのか、市民の方々にどこまで協力と理解を得られるかといったことがこれからは、必要になってくる。また、現状ではそれをストックし、仕分けする場所が確保できない状況にある。こういった状況も考慮しながら検討していきたい。

委員 地方交付税の今後について、また減額となった場合の対応策はどのように考えているのか。広域で行っている事務はどのようなものがあるのか。また、給与等の事務処理等今後広域で検討していくものはあるのか。

財政課長 交付税について今後10年間は、特例措置として合併しなかったのものとして7

町村の合算で算定される。その後は本来の一本算定になり、市になると行政効率が当然よくなるから、交付税は減額され、15年後には、通常の算定方式になる。

交付税が減額していく中での対応だが、起債を増やさないことが重要であると考えている。国で言われている税源移譲についてもあまり期待はできない。今後シミュレーションを作成していくが、10年後を見据え、財政規模を縮減しなければならないと考えている。

総務部長 現在、広域で行っている事務は、安房広域市町村圏事務組合で行っている消防業務、火葬場業務、採用試験業務等がある。ゴミ処理関係等では、鴨川市南房総市環境衛生組合、内房地区の鋸南環境衛生組合等で共同処理を行っている。先進地では、給与等の共同処理について、行っているところもあるが、システム等の問題もあるので十分な検討が必要だと考えている。

委員 旧町村では実施されていた事業で合併協議の中で廃止されてしまった事業について必要であるもの必要でないものの再検討が必要ではないか。

市長 合併協議の中で、廃止となった事業もあるが今後は、市長として発展的に考えていきたいと思っている。

委員 本当に困っている市民の声をもうすこし行政に伝わりやすいような方策をプランの中に入れてもらいたい。

企画部長 市民の方々の意見の反映ということだが、今後総合計画を作成するにあたって市民との協働という観点からそのような場の設定、また目的別、テーマ別において市民の参画を得て進めていきたいと考えている。

委員 行政改革を進めていくにあたっては、市として都合の悪いこと出しにくいことがあると思うが、問題点をオープンにして進めてもらいたい。

委員 行政改革の一番の目的はいかに事務事業を見直してスリム化した行政のスタイルを作っていくことが諮問された最大の課題だと考えている。様々なテーマがある中で今年度中に計画を作成するには、今後どのように会議を進めていくのか。

優先順位を決めて来年から実施しなければならないもの、何年か検討が必要なものを分けての審議が必要である。事務局はこういったことを念頭にいれて今後の会議運営を考えてもらいたい。

事務局 会議の進捗状況によっては、回数を増やすことも考えられる。論議しやすい資料を提示しながら、期間内に計画を作成したいと考えている。

5 . 閉 会